

今月の
小規模店

第532回

栃木県・那珂川町 有形文化財ホテル 飯塚邸

栃木県那珂川町馬頭360
☎0287-82-7551

国登録の有形文化財を リノベーション。 長期滞在の観光拠点に

「飯塚邸」は宇都宮市から車で約1時間、公共交通機関の場合、宇都宮線 氏家駅からバスに乗り、南町バス亭から徒歩1分。写真は「本宅」の外観。



栃

木県・那珂川町。那珂川とそれを取り囲む豊かな自然にあふれたこの町には、江戸時代に当地で大庄屋を務めた飯塚家の邸宅が残る。建物の内部には幕末の騒乱でついた刀傷も残されており、2003（平成15）年には国の登録有形文化財に指定された。この建物を宿泊施設にリノベーションし、19年に開業したのが「有形文化財ホテル『飯塚邸』」である。

同施設は本宅、新宅、文庫蔵、土蔵の4棟・6室で構成される。それぞれ江戸時代から明治時代の建物で、当時の外観を残したままリノベーションが行われた。

客室の内訳は、「本宅」（77㎡、定員2〜4名）、「新宅A」（75㎡、定員2〜5名）、「新宅B」（75㎡、定員2〜5名）、「文庫蔵」（40㎡、定員1〜3名）、「土蔵A」（35㎡、定員1〜3名）、「土蔵B」（35㎡、定員1〜3名）となる。それぞれにキッチンやリビング、シモンズ社製のベッドを配した寝室、浴室などを完備する。

冷蔵庫やテレビ、キッチン什器、WiFiなどの付帯設備や各種アメニティも取り揃えており、日本古来の美しい景観と懐かしい雰囲気を残しながらも、近代的な機能性を付与した。

飯塚邸を運営するのは、那珂川町に隣接する大田原市と市内・県内の企業で出資・設立した㈱大田原ツーリズムだ。同社は、隣接する大田原市を中心にグリーンツーリズムなどに取り組んでいる地域づくりを行なう旅行業を持った

つとして注目されている。旧家を改装した宿泊事業も、そうした取り組みのなかから生まれたものであったという。飯塚邸には、旧来の宿泊施設とは趣を異にする取り組みが随所に見られる。たとえば既存のリゾートホテルでは、大型の施設にさまざまな機能を集約し、街歩きをせずとも

一つの建物内で滞在体験が完結するというスタイルが主流であったが、飯塚邸では宿泊機能以外のホテルとしての機能を、町のなかに分散させているのが特徴だ。イタリアなどで始まっている分散型宿泊施設のスタイルであり、大田原ツーリズムは国内でも先駆的に実践してきた。

たとえば食事。一般的には館内で宿の料理人がつくったものが提供されるところ、飯塚邸では、夕食や朝食に、那珂川周辺で養殖されている温泉トラフグや、那珂川で獲れる鮎、山菜を使った和食や洋食をケータリング方式で、地元のレストランから提供している。加えて、各客室にはキッチンが付いており、宿泊客自身で料理ができるようになっていのである。この場合、食材は近隣の店舗で購入することが可能。また、ホテルからの送迎も対応しており、近隣の10店舗程度のお店に食事に行くこともできる。この他に、旧家の美しい昔ながらの日本庭園を使って夕食・朝食提供やユニークベニユーなどのパーティなども行なっているという。

またアクティビティとして、鮎釣りやラフティング、サイクリング、ジビエ体験、近隣農家での夕食体験など、清流を取り囲む自然豊かな地域ならではのコンテンツを豊富に用意している。

このように同館では、宿単体で宿泊業を行なうというより、町全体で宿泊業も含めた観光業を行なうという考えで運営がなされている。宿泊客が飯塚邸を訪れることで、町全体として恩恵を受けられるという仕組みなのである。

インバウンドにも訴求

ターゲットには、外国人観光客を強く意識している。そもそも海外、特にヨーロッパやアメリカをはじめとする欧米諸国では、休暇・余暇として、長期休暇、パッケージツアーを取りながらの滞在が普通である。そうしたパッケージツアーでの長期滞在の場合、どこかに滞在の拠点を置き、そこから車や電車で移動して観光するスタイルをとることが多い。そのため、外国人観光客のパッケージツアーの選択肢に日本が加わっている外国人観光客を地方に呼び込むためには、ゆったりと快適に長期滞在できる宿泊

施設があることが重要になるのである。

外国人をターゲットに地方の観光を考える場合、これまでの国内観光とは違う、新しい感覚が必要だ。そのために、長期滞在型の観光を宿単体で考えるのではなく、町全体としておもてなすという、これまでとは違ったスタイルを工夫していく必要がある。

こうした新しい取り組みを進めていくことは、並大抵の推進力では難しく、かなりのエネルギーが必要なのではないかとと思われる。

大田原ツーリズムの代表を務める藤井大介氏は次のように話す。

「新しい取り組みを推進するには、まずはしっかりとビジョンが必要になります。しっかりとしたビジョン、夢物語を見せることで、取り組みに関わっていただきたい周囲の方々が想像できるようにすることが大切だと思います」

日本古来の旧家に泊まれる飯塚邸では、歴史を感じさせてくれる建物に新しい観光の風が吹く。まさに未来のあるべき観光を示し、体験させてくれる場所である。

（1）



1 客室「新宅A」のリビングルーム。旧家の趣を残す建物と、モダンな家具の融合した内装デザインだ。広さ75㎡で、5名まで宿泊できる。
2 新宅Aのキッチンスペース。IHコンロや大型の冷蔵庫を備える。
3 客室「文庫蔵」の寝室。ベッドは全室にシモンズ社製を採用した。
4 ㈱大田原ツーリズム代表の藤井大介氏。

